

観光目的の利用者が増えているウイークリーマンション。
家具がそろい日常生活のように過ごせる（京都市北区）



1週間賃貸で京たんのう

ウイークリーマンション 観光での利用増加

ビジネス利用が中心のウイークリーマンションで、観光のために借りる人が京都市内で増えている。長期滞在し、京の生活文化体験を求める人が増える中、安さや、ホテルなどにはない日常生活のような過ごしやすさが受けている。関連業者は京町家の活用などサービス多角化も始めている。

安さ、居住感覚が人気

市内でウイークリーマンション（約三百五十部屋）を賃貸するグッドライフ（下京区）では、利用者の約二割が観光目的。ビジネスマン向けに全国展開しているが観光利用は京都が際立つという。

五年前にウイークリー事業を

開始したフラットエージェンシー。一人一泊にするビジネス

もこの一年間で三日伸びて平均一・四日に。ワンルームタイプが人気だが、家族連れや五、六十代の夫婦らによるファミリータイプの利用も増えてきたという。

同社は二〇〇三年十月には、町家（北区）の貸し出しを開始。銭湯の無料チケットをセットにし、昔ながらの京暮らしを体験できるようにした。

昨年五月、ウイークリー事業に参入したアズライフ（下京区）は近く、観光客向けに二泊三日でのプランを販売する。

マンションなどの契約期間を自由化した借地借家法が二〇〇〇年に改正されたのを機に急増したウイークリーマンション。

「じっくり社寺や名所を巡り生活文化体験を求める観光客が増えている」（京都市観光部）といい、今後も需要は伸びそうだ。

町家活用など サービス多様化